「結婚して子どもを産み、家庭に尽くすのが女性の幸せ」という画一的な価値観は、もはや過去のもの。近年、女性の生き方は多様化が進んでいます。市内においても、個性や能力を発揮し、自分らしく生き生きと活動する女性が増えています。ここでは、考え方や働き方の一つのモデルケース（規範）となる方々をご紹介。市は、こうした「輝く女性」を応援できる社会を築きたいと考えています。

国東の明日を輝かせる Woman Power
── 女性の力 ──

合同会社パッチワークカンパニー 代表 岡野 望美さん

生まれ育ったまちで自分らしく働き、暮らす。そんなモデルケースになりたい。

鉄骨建物や船などの施工図作成をコンピューター上で行う仕事をしています。元々は会社に勤めてその仕事をしていたのですが、さまざまな決まり事やルールに縛られる働き方が合いませんでした。幸いにも私の仕事はコンピューターがあればどこででもできるので、自分のペースで働きたいと思い、独立しました。

地元国東でパッチワークカンパニーを設立し、私を含めて3人の社員と7人の外部スタッフで、協力して業務を行っています。仕事も会議も、全てオンライン。全員が在宅で働く「フルリモートワーク」を実現しているのが会社の特徴です。国東町田深のオフィスも私しかいません。

正直、若い頃は田舎の国東が嫌いでした（笑）。でも戻ってみると、身近な人々と触れ合いながら働くことにすごく幸せを感じたんですね。生まれ育ったまちで好きなことを仕事にして、自分らしく暮らす──。それを実践することで、「新しい働き方」のモデルケースになりたいです。

事務所は岡野さん一人ですが、オンライン上で複数人と共同作業を行っています。

おかの のぞみ
大学卒業後に大分市の設計会社に勤務し、大分市内での独立を経て、国東市でパッチワークカンパニーを起業。社員や外部スタッフとはオンライン上でやり取りし、完全リモートワークを実現。新たな働き方を提案し、全国より注目される。

七島イ作家 岩切 千佳さん

七島イで切り開けた未来。人生は何があるかわからないから興味を持ったらやってみよう。

縁あって国東にやってきたのですが、仕事中にけがをしてしまったんです。仕事は失うし、手術は何回もするし、子どもはまだ小さいし。つらくて苦しくて、毎日泣いていました。

そんな時に目に留まったのが、市報に掲載されていた七島イ工芸士養成講座。大学で芸術を学んでいて、手先も器用な方だったので、興味を持ちました。講座で七島イの歴史や農家さんの思いを知るうちに、どんどんのめり込んでしまって（笑）。国東にしかない伝統産業を守っていきたい、なくしたくないと強く思いました。今では七島イ作家として工芸品を作ったり、ワークショップを開いたりして、七島イに触れる機会を皆さんに提供しています。

七島イに出合って10年。七島イ作家になるなんて想像もしていませんでしたが、七島イのおかげで、未来を切り開くことができました。人生は何があるかわからないから、興味を持ったらやってみよう──。これまでを振り返って、国東の女の子たちに伝えたい私からのアドバイスです。

円座やアクセサリー、飾り物など、一点一点心を込めて製作します。

いわきり ちか
宮崎県出身。国東市内の企業で勤務中に事故で左手小指を痛め、リハビリを兼ねて参加した七島イ工芸士養成講座を経て七島イ作家の道へ。「七島藺工房ななつむぎ」を立ち上げ、安岐町明治を拠点に工芸品の製作や七島イのPRに取り組む。

安永醸造有限会社 代表取締役 西 百恵さん

変化しないと生き残れない。でも、変えてはいけないものもある。社長になってわかった経営の奥深さ。

父が亡くなり実家の安永醸造を継いだ時は、会社の業績は厳しい状態でした。おいしいみそやしょうゆを作ることももちろん大切だけど、もっと販売に力を入れていかないといけないなと思いました。

そこで取り組んだのが、デザインの改良です。会社のロゴや容器に貼るラベルをおしゃれに変えたところ、これまで取引のなかった雑貨店などから注文が入るようになりました。販路が広がり、会社が黒字になったときはうれしかったです。ただ、長年受け継がれてきた伝統のデザインを変えたので、職人気質の父が天国で苦笑いしているかもしれないですね（笑）。でも、中身は変えていません。変化しないと生き残れないけど、変えてはいけないものもある──。社長になってみて、経営の奥深さや面白さを実感しています。

行政や商工会の支援が充実しているので、もっと女性の起業や事業承継が増えればいいなと思います。チャレンジしている女性がいたら、ぜひ応援してあげてください。

県の産業科学技術センターで学んだ知識を生かして、商品づくりに励んでいます。

にし ももえ
大学卒業後、中国の雑誌編集の会社に勤務。帰国後、130年の歴史を持つ実家の安永醸造（武蔵町古市）に入社し、5代目社長に就任。自らと同世代の30～40代の女性をターゲットに定めて商品デザインを改良し、会社を黒字に導く。